

菅茶山 顕彰会だより

第26号

2026年(令和8年)1月16日発行
菅茶山顕彰会
info@chazan.click

HP 菅茶山新報
菅茶山情報
顕彰会ニュース掲載



山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

新年、あけましておめでとうございます。

5月の定例総会にて承認された本年度の顕彰会活動も、会員の皆様のご協力によって順調に進み、下にご案内する第4回学習会を残すのみとなった。

第4回学習会(通算19回目)のご案内

- | | | |
|-------|---------------------|--------------|
| 1 日 時 | 2月14日(土) | 9時30分～11時30分 |
| 2 内 容 | 各所に残る茶山詩碑(神辺町内を中心に) | |
| 3 講 師 | 菅茶山顕彰会副会長 黒瀬道隆 | |

活 動 報 告

☆ 菅茶山ポエム絵画 秋季かなべ町並み格子戸展(10月24日～11月6日)



春に続いて、廉塾まつりから本陣まつりの間、各部門の最優秀賞8点を廉塾入口に、格子戸宅に入選作品75点を展示した。

展示や撤収作業の際、町の人たちから「いつも、ありがとうございます。作品があると春・秋が来たことを実感しています。廉塾まつり前後には、三日市から七日市を散策している観光客がいて、楽しそうに作品を鑑賞しています。恒例となっているので、これからも続

けてほしい。」との嬉しい声を聞くことができた。

☆ 菅茶山ポエム絵画 神辺支所エントランス展(12月15日～12月26日)

本年度最後の作品展、21点をエントランスに展示した。

年末の慌ただしい年末のひと時、子どもたちの絵の前で立ち止まって鑑賞される姿は心温まるばかりだ。

☆ 2025年度作品展示に向けて

11月28日(金)、神辺文化会館小ホールで(土)神辺美術協会のご協力を得て、本年度出品された3,122点から、保幼・1年・2年・3年・4年・5年・6年・中高の部門ごとに、最優秀賞・優秀賞・入選の400点余りを選考した。

例年、「夕日」・「梅」・「ホテル」「雪の日」「あさがお」のイメージしやすい作品に偏る傾向があったが、今年は「廉塾」・「冬夜読書」「御領大石の歌」も多く、子どもなりの表現に感心しながら楽しく鑑賞できた。



2025年度 茶山ポエム絵画展 1月10日(土)～2月1日(日)

全入選作品が菅茶山記念館いっぱい展示される。ぜひ、子どもたちの視線から「茶山ポエム」がどのように写り・表現されているかをご覧ください。

◎ 備前市周辺への研修旅行（11月5日）

昨年度の反省から、暑さ寒さが気にならず・紅葉が期待できる行楽シーズン、顕彰会会員をはじめとする25名で、特別史跡「旧閑谷学校」をメインとした備前方面への研修に出かけた。

駐車場からウキウキ気分ですぐに歩を進め、閑谷学校の校門（鶴鳴門）をくぐると、講堂を中心に静かで落ち着いた雰囲気には引き込まれるようだった。

3グループに分かれ、備前市ボランティアガイドの案内で、分かりやすく詳しい説明と参加者からの質問への回答を得ながら、石堀・閑谷神社・聖廟・講堂（学問の殿堂で閑谷学校を代表する国宝）・小斎・習芸斎・飲室などを見学した。



楷の木の紅葉を期待していたが、猛暑の関係で少し時期が遅れているようだ。講堂では、岡山市内の中学生が論語の授業中で、唱和の音が響き渡り、当時の様子が思い起こせるようだった。授業後は箒で履き、後ろ向きで雑巾がけをし、朱塗りの広間は火灯窓から差し込む光を反射していた。

1905年（明治38年）の姿が残る校舎を利用した資料館には、西山拙斎や姫井桃源などの文人と交流をもち、一緒に閑谷学校を訪れた菅茶山などの紹介があり、少し離れた場所には、茶山や頼山陽などを迎えて親交を結んだ黄葉亭（茶室）もあった。もっと時間を費やして見たかった。



昼には、たっぷりの海鮮料理を頂き、びぜん海の駅での水産物を中心とした買い物を済ませて備前焼の窯元へ……。三段登り窯の前で、備前焼が完成するまでの作業の説明とともに、材料の土や燃料としての赤松の不足と合わせて、よりよい物を時間をかけて創造する伝統工芸への不理解からくる後継

者不足を熱弁された。そうして視点をもって、じっくりと作品を鑑賞した。

そして帰路へ。少し歩く距離は長かったが、豊かな学びを得ての心地よい疲れだった。

《俳句の会の方々から寄稿された「閑谷学校」等をお題とした作品例》

石堀の匠の丸さ天高し
講堂に響く素読や楷紅葉

珊瑚めく楷の実そとポケットに
窯出しの火襷著き冬帽子

◎ 茶山ポエムハイク（11月23日）

顕彰会・菅茶山顕彰会共催で開催した「茶山ポエムハイク」。市内募集の参加者を含めた17名が天別豊姫神社に集合し、神辺川北地区を菅茶山の足跡を訪れながら、約5キロの道のりをおしゃべり一杯で歩き切った。

顕彰会黒瀬副会長の案内で、天別豊姫神社での小早川文吾作字の刻まれた狛犬や鈴鹿秀満の墓碑を皮切りに、各所を見学した。茶山墓域では、墓地配置略図をもとに建立された茶山にまつわる方々の墓碑を見学した。また、龍泉寺の「龍泉寺櫻」・西福寺の「西福寺賞梅」・紅葉堂前の「神辺驛」の詩碑を、帰天満宮・古城天満宮・天別豊姫神社参道の茶山筆による石碑も。様々な所に足跡が残っていることを実感した。西福寺では、本堂での住職の解説を受け、茶山書「西福寺門額」や木額まで見せていただいた。感謝。

__その他、民家に咲く廉塾バラ（廉塾の正門前に咲くバラとの遺伝子鑑定済）や神辺宿を守るための堰の跡なども確認でき、新しい多くの発見のある一日となった。

来年の川南地区ハイクが楽しみだ。

